

## 郷土摂津

第69号

平成16年1月1日

## いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課  
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

**年のごあいさつ** あけましておめでとうございます。世相は厳しく様々な改革が望まれて  
ます。歴史は過去の記録だけではありません。先人の智恵の集積です。これからも現代社  
会に生きる文化財情報を発信していきます。本年も摂津市の文化財行政に、ご支援賜ります  
ようお願い申し上げます。 摂津市教育委員会 生涯学習部次長兼生涯学習課長 芝野孝一



**一斗マス** 俵に詰める時  
の計量に使うので把手が  
ついています。直径32cm。  
高さ32cm。大正10年購  
入の墨書。

**俵じょうご** 米を俵  
に詰めるときの大型の  
漏斗(じょうご)です。上縁の  
直径56cm。高さ  
35cm。



**こめさし** 長さ50.5cm。尖っ  
た先を俵に刺してサンプル  
米を抜いて検査します。

## 農具から見た春夏秋冬 第10回 俵づめ

今は米は紙やビニール系の袋に入っていますが、米は永らくわらで編んだ俵に詰めてい  
ました。食べる前に精米した方が保存がきく  
ことと美味しいので、玄米で俵に詰めました。

一斗升に玄米をたっぶりいれ、丸棒(斗搔)  
ですりきりをします。そして、俵に俵じょう  
ごを使用して詰めていきます。

俵はチギで計ります。  
2人で天秤棒の両端を  
かつぎ、真中にチギを直  
角方向に吊るして引っ  
かけて持ち上げ、もう一  
人が分銅を動かして目  
盛りを読みます。



### 1月のふるさと摂津講座

日本における「国民改姓」  
絵図から見る淀川の風景

**講師** ふるさと摂津案内人  
高上 慶美 氏  
村上 道子 氏  
**とき** 平成16年1月21日(水)  
午後2時～4時  
**ところ** 総合福祉会館・第1会議室  
**入場料** 無料  
**定員** 60名

講座は申し込み不要です。当日直接  
会場へご来場ください。

### ふるさと摂津案内人養成講座

摂津の歴史を学び、  
伝えていきましょう。

**とき** 1月14日・1月28日・2月4日  
2月18日 (いずれも水曜日)  
**ところ** 市役所本館2階 第1会議室  
最終日は鳥飼地区歴史散策  
**定員** 20名  
**申し込み** 1月5日から受付。定員になりし  
だいに締め切ります。電話可。  
生涯学習課生涯学習推進係まで  
06(6383)1111・072(638)0007

この講座は市民の方々に歴史を伝えていただける  
人材の育成を目的としています。

## 石碑・顕彰札の紹介

## 摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市一津屋2丁目18地先

【設置年度】平成8年度改修

### 交通の要衝 宮の下渡船場跡

渡し船には、横渡し船と通い船とがありました。それぞれ渡船場から一定の料金を払って、対岸または必要な川筋へ運んでもらうものでした。これらの渡船場は、明治の初めごろまでは、大阪市内だけでも名の知れたもので38箇所もありました。しかし時代の流れの中、つぎつぎと姿を消していきました。

摂津市内には、淀川に鳥飼の治歩多渡し、願正寺渡し、一津屋に宮の下渡し、神崎川に別府の上川島渡しに渡船場がありました。

味生神社の前に昔、宮の下渡船場が栄えていました。宮の下の渡しは河内大庭大切と摂津一津屋村宮の下を結んでいました。

戦国時代末の永禄年間（1558～69）から存在したと伝えられています。川幅も約300間（約550m）あったとされています。宮の下の小字から駒頭渡しとも呼ばれていました。『一津屋村誌』（明治12年発行）には「渡船場有り、駒頭渡ト称シ、本村ノ中央、即チ河内国七番村二通スルモノ、広サ三百七間四尺、渡船二艘」と記しています。昭和29年の鳥飼大橋完成によって姿を消しました。



### 第33回 埋もれた摂津市の歴史

### 摂津市から須恵器が出土（5）

旧味舌村からは焼成が強すぎたり弱すぎたりといった不良品が多く採集されています。これらの不良品は味舌地区に須恵器を焼く窯があり、不要となった土器を廃棄したのか、千里窯跡群（とくに岸部地区）で作られた土器を選別する場所があった可能性を示します。千里窯跡群と並び須恵器生産の中心として我が国有数の窯業地帯であった陶邑（すえむら）窯跡群では、これらの生産遺跡が発見されています。石津川流域では深田橋遺跡、陶器川流域では陶器南遺跡、辻之遺跡、田園遺跡があります。これらの遺跡の共通していることは、倉庫と考えられる建物跡や不良品の須恵器がたくさん見つかることです。焼きあがった須恵器を運びこみ、良品と不良品に選別した後、倉庫で保管し河川などを利用して出荷する集積・出荷センターの役割があったのかも知れません。